

奈良国立博物館「令和まほろばプラン」

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、それに併せて全国的に日本の美を体現する我が国の文化芸術の振興及びその多様かつ普遍的な魅力を発信する日本博が開催され、奈良の地にも更なる訪日外国人観光客の増加が予想される。

奈良国立博物館は仏教美術及び奈良の文化を中心とした、仏像など文化財約3千9百件を収蔵する日本のみならず世界でも屈指の博物館であり、日本文化発祥の地である奈良から、今後更にその魅力を世界へ発信するため、以下のプランを策定し実現に向け挑戦する。

1. 古都奈良より世界へ日本の歴史・伝統文化を発信し、その理解を強化

- (プラン①) 我が国の仏教文化のもつ優れた芸術性やその背景にある歴史について、訪日外国人にも理解しやすくなるよう、展示内容・展示方法・解説内容を検討
- (プラン②) 展示解説及び広報の多言語化を推進
- (プラン③) 仏教文化の理解が深まる普及事業の充実と体験型プログラムを実施し、より一層の理解を促進

2. 奈良国立博物館の魅力を世界へ、情報発信力の強化

- (プラン④) SNS の活用拡大と展示品の写真撮影を可能とし奈良国立博物館の魅力を積極的に発信
- (プラン⑤) HP と広報印刷物をより魅力的な内容に刷新し来館の動機付けの拡大

3 快適な観覧環境（来館者サービス等の向上・施設の有効活用）の提供

- (プラン⑥) 来館者サービス等の向上
- (プラン⑦) 施設の有効活用

4 快適な観覧環境実現のための施設整備改修計画の策定を推進

- (プラン⑧) エントランス拡張整備等
- (プラン⑨) 東新館展示室の全面リニューアル
- (プラン⑩) 収蔵スペースの拡張

5 プラン実現のための基盤確保等

- (プラン⑪) プラン実現のため、入館料等の引き上げを検討
- (プラン⑫) ファンドレイジングの推進
- (プラン⑬) プラン実現のため、企画立案運営等にあたる人材を確保

奈良国立博物館「令和まほろばプラン」のアクションプラン

奈良国立博物館が立地する奈良公園は、多くの指定文化財・世界遺産が点在し、年間を通じて日本国内のみならず外国からも多くの観光客が訪れ、日本を代表する観光地である。その特性を活かしながら、さらに奈良国立博物館の存在感を際立てる事等を検討する。

1. 古都奈良より世界へ日本の歴史・伝統文化を発信し、その理解を強化

(プラン①) 我が国の仏教文化のもつ優れた芸術性やその背景にある歴史について、訪日外国人にも理解しやすくなるよう、展示内容・展示方法・解説内容を検討

- 展示コンセプト表示や日本の歴史と仏教美術に関連した、ストーリー性の有る展示解説へ見直すとともに新たな展示を検討
- 文字数は、解説文の性格やスペースに応じて弾力的に対応
- コーナー解説の充実
- 作品の見方解説の充実
- 題箋の見やすい掲載位置と大きさについて検討

(プラン②) 奈良の地にも急速に増加していく訪日外国人旅行者、日本在住の外国人等の多様なニーズに応じていくことができ、楽しんでもらえ、興味関心を抱くよう、表面的な意味合いのみならず、精神性、歴史等までわかるような、展示解説及び広報の多言語化を計画的に推進

- 計画的に解説の多言語化を推進
 - 第一段階（2019年度中）：なら仏像館解説
 - 第二段階（2020年度中）：名品展等（西新館）
- 特別展、特別陳列、特集展示における多言語化の充実
- 翻訳ではなく、外国人向けの丁寧な解説を書き下ろす
- ネイティブから見ても高いレベルの解説
- 館内サイン（インフォメーション、チケットブース、フロアマップ、緊急誘導等）の多言語化を図る
- HP・チラシ等広報の多言語化を推進
- タブレット、スマートフォンによる新たな多言語観賞ガイドアプリを開発し、2020年春を目途に導入

(プラン③) 仏教文化の理解が深まる普及事業の充実と体験型プログラムを実施し、より一層の理解を促進

- 奈良市教育委員会と連携した世界遺産学習を継続し、学校における文化芸術に関する教育の充実を図る
- なら仏像館を楽しみながら観覧できるよう、クイズ形式等による子ども用教材（ジュニアガイド）を作成し近隣の小学校へ配布し、仏教美術と博物館へ興味を持ってもらい、来館の動機付けとする
- 年4回実施している仏像供養の広報を強化し広く参加者に仏像供養を通して仏教文化における儀式の姿を伝える
- 特別展等におけるワークショップ等の内容を充実させ体験型による仏教文化等の理解を深める
- ボランティアサポートグループによるワークショップ、体験型プログラム（触れる仏像、表装体験、絵巻芝居、雅楽等の複数プログラム）を通年で地下回廊の専用スペースあるいは可搬式のワゴンにより実施する事を検討
- 国立文化財機構文化財活用センター等で実施されている、機構内の体験型プログラムの実施と高精細レプリカや関連映像の展示

2. 奈良国立博物館の魅力の世界へ、情報発信力の強化

(プラン④) SNS の活用拡大と展示品の写真撮影を可能とし奈良国立博物館の魅力を積極的に発信

- 新たにフェイスブック、インスタグラム、WeChat（微信）による情報発信力を強化
- なら仏像館の指定箇所・青銅器館での写真撮影を可能とし、展示品の情報、感動を観覧者が所有し、かつ、SNS を活用した情報発信をしてもらう
- SNS ユーザー向け鑑賞会を実施し情報拡散を図る
- SNS と連動したフォトコンテストを実施し、優秀者にグッズ謝礼を贈呈するなど情報拡散を図る

(プラン⑤) HP と広報印刷物をより魅力的な内容に刷新し来館の動機付けの拡大

- HP の更新（来館の動機付けとなる、見やすく、分かりやすく、動画の活用、SNS 連動、多言語化、海外の交流館連携、チケット購入サイト連携機能等）と、スマートフォン対応の HP を作成
- 博物館だより等の広報印刷物をより魅力的となるよう内容とデザインを刷新し、かつ多言語化し来館者データ分析に基づいた広報活動を展開

3. 快適な観覧環境（来館者サービス等の向上・施設の有効活用）の提供

(プラン⑥) 来館者サービス等の向上

- 来館者の利便性の向上と、現金取扱い事務の効率化にもつながる、チケット販売の QR コード決済、キャッシュレス化には既に取り組んでいるが、さらに国内・訪日外国人への広報拡大にもつながる国内・国外チケットオンラインサービス等による事前チケット販売を拡大
- 博物館の利用対象者は、子供、高齢者、障害者、在住外国人、外国人観光客、地域内外の人々などを含む多様な人々であり、より多くの人々が利用できる環境を目指し、博物館へのアクセシビリティを調査し改善する。特に、高齢者、障害者等に対する文化芸術活動の推進のため、快適な観覧環境とバリアフリー化を推進
- カフェとミュージアムショップ等の充実
レストランのメニューを増やし特別展に関連した特別メニューを増加
奈良の伝統産業等を用いた奈良博オリジナルグッズを開発し魅力的なショップを展開
- 近隣社寺美術館等との共通入館券の導入を検討
なら仏像館の入館者増の効果につながる、奈良公園近隣社寺美術館等の文化施設をお得に回れる共通入館券（パスポート）を導入（柔軟な有効期間を設定し奈良の観光課題である長期滞在者の増につなげる）

(プラン⑦) 施設の有効活用

- 西新館1階の有効活用(ストーリー性のある仏教美術展示、古都奈良の歴史展示等新たな展示場所の設置・ミュージアムショップとカフェの増設等)と、より魅力的とする地下回廊無料ゾーンの見直しを検討
- 奈良国立博物館は奈良公園観光地の中心に位置し、日本国内のみならず外国からも多くの観光客が訪れ、観光客のメインの通りとなっている、その観光客を当館まで誘引(常設展・特別展情報、庭園散策、レストラン、ショップ等の無料ゾーン紹介)する多言語化による案内サインを設置
- 庭園の改修と観覧日の増を実施
新館による展覧会を実施していない期間に来館機会を増やすため、奈良博の新しい魅力となるよう庭園を改修し観覧日の増を図る
※ 庭園の改修は、安全対策、解説・樹木草花等の整備、監視カメラの設置、監視人員の配置を検討する。
- 来館目的の一因となるよう四季折々の庭園も含めた散策ガイドを作成
- なら仏像館西側敷地の活用
なら仏像館に向かう休憩用ベンチの設置と撮影ポイントを設置
イベント等の誘致を推進
- 仏教美術資料研究センターの活用
図書資料室の利用日との調整および人員配置を前提として、庭園観覧と併せて、仏教美術資料研究センター(重要文化財旧奈良県物産陳列所)の開放(建物・玄関・門)を検討
新たな展示(文化財活用センターと連携した高精細映像、体験型プログラム等)の設置を検討

4. 快適な観覧環境実現のための施設整備計画を策定し将来を見据えた博物館構想を推進

(プラン⑧) エントランス拡張整備等

- 狭隘なエントランスホールを特別展の内覧会など多数の来館者に対応できるエントランススペースへ整備

(プラン⑨) 東新館展示室の全面リニューアル

- 竣工22年経過した東新館展示室の展示ケース、照明、内装等を全面リニューアルし、展示効果のより高い仕様とし観覧環境の充実を図る

(プラン⑩) 収蔵スペースの拡張

- 老朽化した空調機器（東新館：竣工後22年経過）等により展示環境は深刻な状態となっている。現在の設備スペースでは取り換えスペースが無いため、新たに設備室を増設し機器を更新する。また、既存の設備室及び竣工後31年経過した資料庫は、狭隘している収蔵庫等に改修し有効活用を図る

5. プラン実現のための基盤確保等

(プラン⑪) プラン実現にあたり、自己財源確保のため入館料等の引き上げを検討

- プラン実現のための料金（入館料及び施設使用料金）の引き上げを検討
- 新たなレジシステムを2019年秋までに導入し来館者データによる持続可能な博物館運営につながるマーケティング分析と業務効率化

(プラン⑫) プラン実現にあたり、自己財源確保のためファンドレイジングの推進

- 奈良国立博物館プレミアムカードの内容をより魅力的なものに見直し会員を増加
- 賛助会員等寄付者を対象とした貸し切り観覧の内容を充実させ寄付者を増加
- 講堂、茶室、庭園、仏教美術資料研究センター等の施設貸付の広報を強化し貸付機会の増

(プラン⑬) プラン実現のため、企画立案運営等にあたる人材を確保

- プラン実現のため、企画立案運営等にあたる人材を確保
- 組織体制の整備
訪日外国人も含めた教育普及事業体制を整えるため、「仏教美術学習・研究センター（仮称）の設置を推進